

2014年10月に第5回全国工場夜景サミット（日本六大工場夜景）が周南市で開催されました。夕闇にたたずむコンビナートが光に包まれた景観は、昼間の喧騒とはかけ離れた幻想的な美しさです。周南コンビナートは、近くを新幹線が走り、車内からも夜景を楽しむことができます。

さて、今回は工業統計調査のお話です。グラフのとおり山口県の工業の1事業所当たりの出荷額は35.9億円で、1998年から17年連続で全国第1位です。従業者1人当たりの出荷額も5年連続で全国第1位となっています。

これは、コンビナートで他の産業の原材料を生産する石油製品・石炭製品製造業、化学工業のような「素材型産業」が県出荷額の七割を占めているからです。

工業統計調査の歴史は古く、今から100年以上も前の09（明治42）年に始まりました。20（大正9）年からは毎年実施され、出荷額や事業所数、従業者数など経済活動の動きを継続的に記録・蓄積しています。調査結果は、景況判断のための基礎データとして活用されるほか、国民経済計算（GDP）の推計などにも使用されています。

調査対象は従業者4人以上の製造事業所で、現在、県内には約1900の事業所があります。次回の工業統計調査は、来年6月の平成28年経済センサス活動調査の中で実施します。ご協力をお願いします。

